



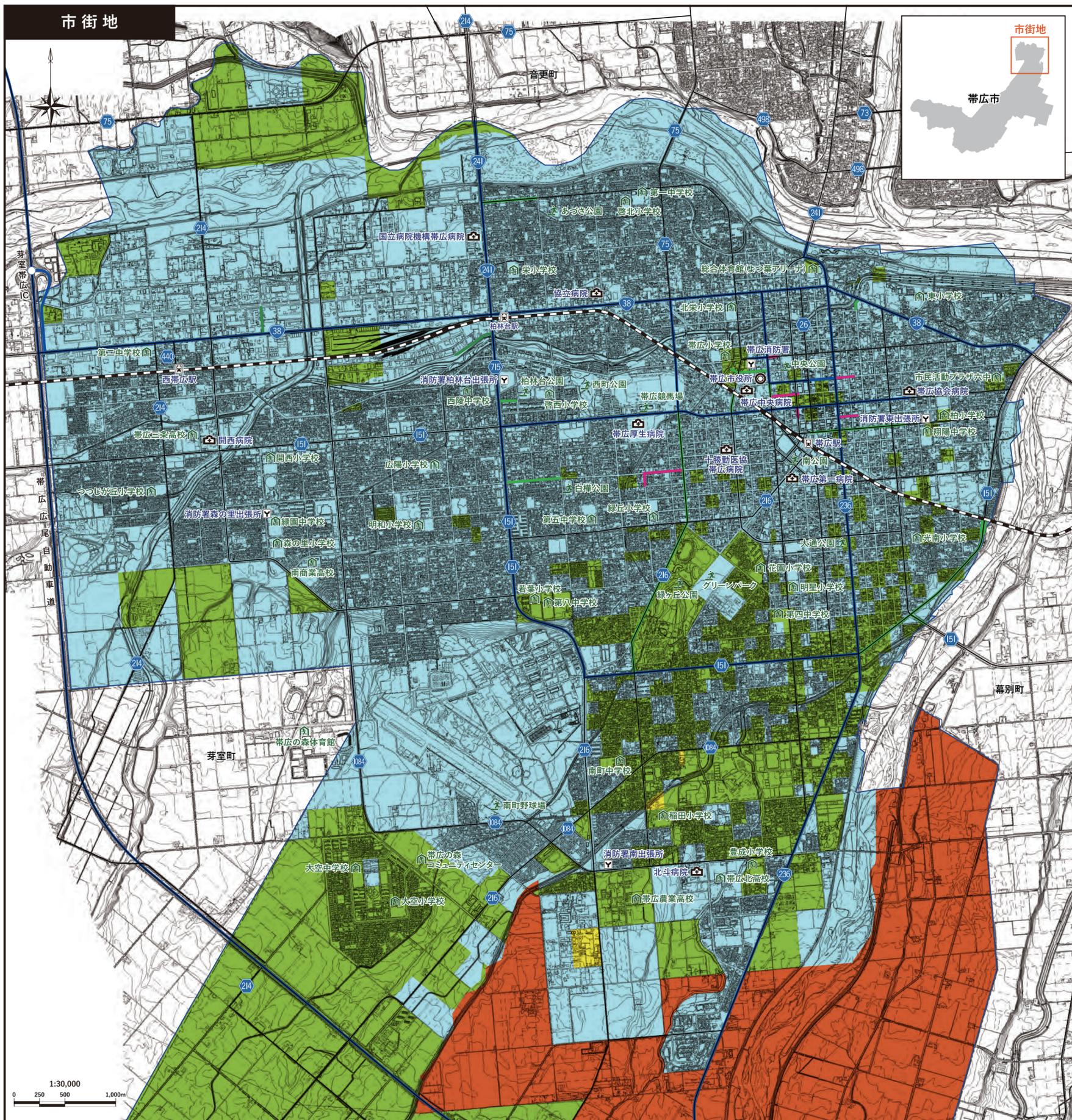
帯広市
Obihiro City

建物被害想定マップ(市街地全体)

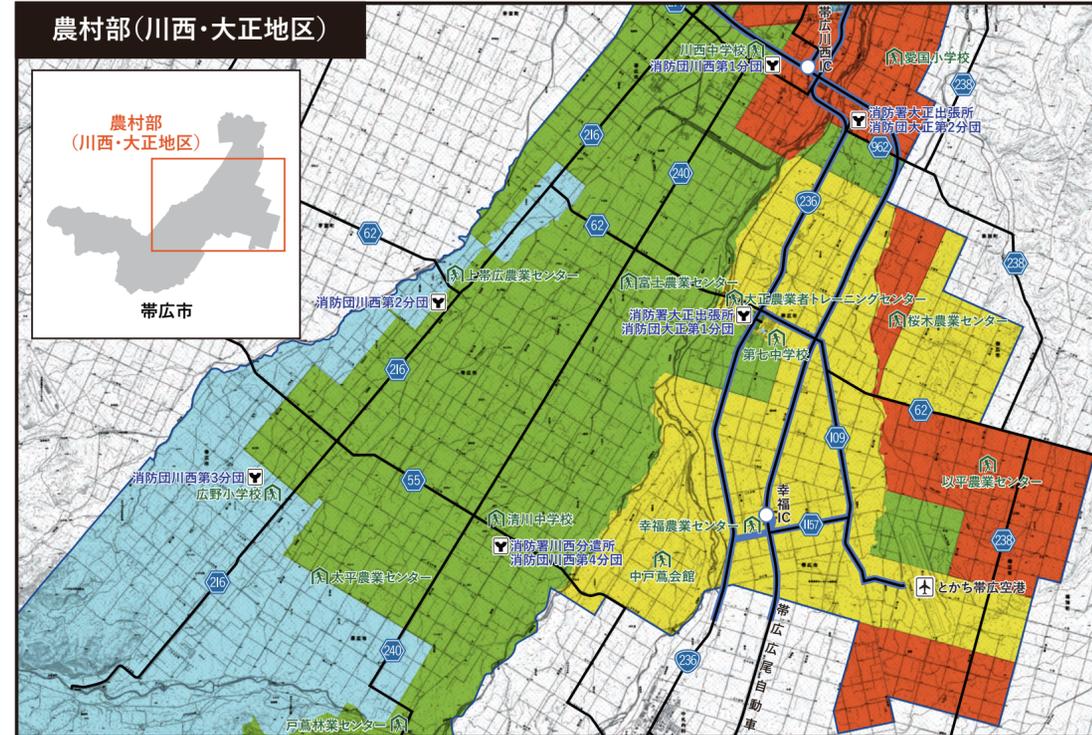
【想定地震 十勝平野断層帯主部 M7.4】

お問い合わせ先

帯広市都市環境部都市建築室建築開発課建築指導係 (TEL: 0155 - 65 - 4181)



「測量法に基づく国土地理院長承認 (複製) R 2JHf 518」
「本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。」



建物被害想定マップとは

建物被害想定マップとは、揺れやすさマップで示された強さ(震度)の揺れが発生した場合に、建物が全壊する可能性を建物の建築年数・構造などから推定し、その割合を地域ごとに「建物被害率」として表したものです。また、昭和56年以前に建築された建物が多い地区は、一般的に建物被害率の数値が大きくなります。

揺れやすさマップ

<地域の揺れやすさ>
地域ごとの揺れやすさ

建物被害想定マップ

<建物被害率>
地域ごとの建物が全壊すると予想される割合

地域ごとに建築年代や構造を考慮した建物分布

凡例

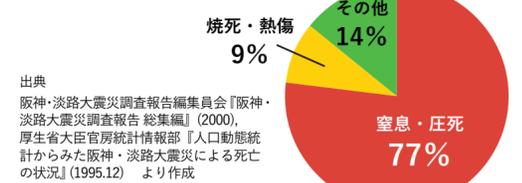
建物倒壊危険度

色	地域内の建物の中で全壊する建物の割合
	(以上) (未満)
赤	建物被害率 10.0% ~
黄	建物被害率 5.0% ~ 10.0%
緑	建物被害率 1.0% ~ 5.0%
青	建物被害率 0.0% ~ 1.0%

耐震化の重要性

地震による死亡・ケガの原因は?

阪神・淡路大震災での死者のうち、約8割は揺れによる建物倒壊、家具類の転倒による窒息・圧死といわれています。



皆さんの生命や財産を守るためには、住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。

木造建物耐震化チェックリスト

ご自宅の耐震性について確認してみましょう!

- 建てたのは昭和56(1981)年5月以前である。
- 過去に浸水、火災などに見舞われたことがある。
- 壁や基礎にひび割れがある、傾いているのがあるなど老朽化している。
- 建物の平面の形状や、偏って大きな窓があるなど耐震性に関する問題がある。

ひとつでも当てはまれば、耐震診断について建築士などに相談してみましょう。

避難施設等

- 指定避難所
- 消防署
- JR
- 広域避難場所
- 空港
- 主要な道路
- 帯広市役所
- JR 駅
- 市界
- 病院

地震時に通行を確保すべき道路

- 第1次緊急輸送道路
- 第2次緊急輸送道路
- 第3次緊急輸送道路